

第10回大会、盛会のうちに終了！

キリスト教礼拝音楽学会 第10回大会報告

植木 紀夫

キリスト教礼拝音楽学会の第10回大会は、2010年5月29日(土)10時から、広島市の日本基督教団広島流川教会で開催された。東京以外での大会としては2008年の大阪以来2度目である、学会発足から10年の今年、広島での大会開催にご尽力頂いた関係各位にまず心からの感謝を述べさせて顶きたい。

広島流川教会礼拝堂で行われた大会は、大会テーマ『礼拝における実践』のもと、最初に佐々木悠氏によるオルガン前奏、N.ハキム:コラル前奏曲《神はわかやぐら》がプログラムの先立ちとなって演奏され、総合司会伊東辰彦氏、金澤正剛会長の会長挨拶によって始まった。

研究発表は2名の研究者による「日本人の教会音楽作品について」であった。[研究発表1] 大津磨由美氏「山本直忠の聖楽劇《受難》(1950年)。構成はオラトリオに近く、宗教歌劇と言うべき作品である。複数の福音書からの抜粋・統合によるためタイトルは《受難》のみ。1904年生まれ山本直忠(山本直純の父)によるこの作品は、ヘルマン・ホイヴェルスが、能を鑑賞したことをきっかけに劇台本として書いたテキスト全体に音楽をつけた作品である。ライブツィヒで学んだ山本直忠の手法は、簡素な旋律を軸に様々な登場人物のレチタティーヴォ、合唱、オーケストラ(又はオルガン)を配置し、カトリック的要素が随所に現れている。作曲直前にカトリックの洗礼を受けている山本直忠は、作品にグレゴリオ聖歌(カトリック聖歌集『いばらのかむり』)を用いたり、カトリック信者を演奏に起用するなどした。グレゴリアン音楽学会の創設にも尽力した、日本における教会音楽家の一人としての山本直忠の作品を知ることは貴重なことであった。本人指揮による1962年公演の映像も紹介され、大変興味深いものであった。[研究発表2]は、佐々木悠氏による「日本人のオルガン作品について」。佐々木氏は、

1945年以降日本人によってつくられたオルガン(パイプオルガン)作品について、その歴史的背景と作品の特徴について発表した。オルガン作品の創作は、1970年大阪万博におけるキリスト教館・オルガンコンクール等をきっかけに、1970年代から1990年代、とりわけ楽器が急速に普及する1990年代にピークを迎える。佐々木氏は294作品の楽譜を収集し、演奏技法の観点からの作品の特徴を、近藤譲『人間の声』(1988年)、中川俊郎『声を伴ったパッサカリア』(1995年)の音声・映像メディアと共に紹介した。前者は1960年代以降の新しい演奏技法等を取り入れたもので、1音ごとにレジスターを変化させ「音の強さの遠近法」を用いている。後者は、不規則で一定の旋律ではないパッサカリア主題を、演奏者自らが歌いながら演奏する作品。映像メディアで紹介された後者は、佐々木氏自身の演奏によるものであった。作曲の多くが委嘱によるため、創作活動が断続的でオルガン演奏を専門としない人によっているのは、教会よりもホールの楽器としてオルガンが普及した日本の現状を反映している。作曲家・オルガニスト・ホール関係者間の、今後新たな関係の可能性の期待についても言及があった。

続いて広島流川教会牧師、沖村裕史師による基調講演が「教会に仕える讃美—より豊かな礼拝をめざして—」と題して行われた。講演は同教会の礼拝式次第(聖霊降臨節第2主日礼拝)の流れに沿う形で進められ、信仰告白、讃美歌等を実際に唱え・歌いつつ進行。コリントの信徒への手紙—12:12-26の朗読、賛美「こころをひとつに」(讃美歌21-393)1節に続き、礼拝の説教に当たる部分で基調講演がなされた。

沖村師は広島流川教会における、教会形成のための3つのコンセプト、すなわち(1)「互いに支え合い、ひとつとなって伝道のわざに励む教会」、(2)「被爆を証言し、平和を祈り求める教会」、(3)「豊かで、美

しい礼拝を創り続ける教会」を踏まえ、12 指針を掲げていることを紹介された。その第 1 は「教会の使命は伝道」－すべての人々に対する呼びかけ・招きとしての伝道。そして第 2 は「伝道は主日礼拝から」－神の愛に対する感謝の応答としての礼拝を誠実にささげることから伝道が始まることを述べられた。その上で礼拝形成のための指標を、越川弘英著『礼拝探訪』、J. F. ホワイト著『キリスト教の礼拝』を引用しつつ、礼拝音楽への諸相を踏まえ論じられた。リタージカルムーヴメントの中で為された各教派の礼拝刷新における共通性と多様性を見る中で、礼拝の本質を踏まえつつ礼拝の姿・有り様を検討・構想するための 3 つの軸は、Ⅰ. 「神」と「人」の指標、Ⅱ. 「共同」と「個人」の指標、Ⅲ. 「典礼的」と「霊的」の指標である。Ⅰは、礼拝が神からの恵みであると同時に、その恵みに対する人からの応答である点。これらの点を教会が吟味する中で礼拝音楽の方向付けが為される、というものである。Ⅱは、礼拝は個人が信仰を持って進み出るものであると同時に、共同体的な信仰表現である点。沖村師は礼拝が個人の静かな表現と共同体としてのダイナミックに表現される時とが、計画的かつドラマチックに構成される必要を投げかける。Ⅲは、典礼的か霊的か、どちらに重心を置くかによって礼拝の構成や表現のあり方が異なってくるという点。これらの指標によって礼拝刷新における立体的 3 次元における神学的ポジションを明らかにし、礼拝がどこにあり、どこに向かおうとするのかを明確にする必要を述べられた。最後に「礼拝」音楽におけるリーダーシップと多様性について、会衆の高度な礼拝参与に求められる高度な

リーダーシップ、すなわち互いに仕えあうことのできる「奉仕するリーダーシップ」の必要について述べられた。

懇親会では E. ヘンゼラー氏、大津磨由美氏のリコーダーと、佐々木悠氏のオルガン伴奏によるミニコンサートが行われた。豊かな響きに包まれるひと時であった。続けて行われたシンポジウムは、佐々木しのぶ氏の司会の下、「教会音楽・実践の現状」と題し、広島流川教会音楽主事・大代恵氏、広島ルーテル教会オルガニスト・吉田仁美氏、カトリック広島観音町教会オルガニスト・横田和歌江氏がそれぞれ発題された。様々な礼拝改革を経つつ、教会オルガニストを任職し、謝儀を持って教会の働きを負う教会音楽主事の立場で奉仕する流川教会、礼拝音楽の勉強へのパワーに溢れているというルーテル教会については、牧師が讃美歌の番号を間違った時のエピソードを披露され、信頼に支えられる協力関係の空気が感じられるものであった。こどもにささげるミサに取り組み、オルガン見学会を定期的に行っているカトリック教会では、オルガニストを目指す子供が多く導かれているとのこと。教会でのサンデーコンサート、応答唱の実践、オルガニストの謝礼についてなど、フロアからも活発な質疑が出された。

前後するが、基調講演の後に総会が行われ、第 1 号議案 = 2009 年度事業報告及び 2009 年度収支決算の件、第 Ⅱ 号議案 = 2010 年度事業計画及び 2010 年度収支予算案の件が承認された。

こうして、充実したプログラムの、有意義で実りの多い今年度の大会を無事終了した。

(桜美林大学准教授、当学会理事)

★テーマ 礼拝における実践

★日時 2010年5月29日(土) 10:00-16:30

★会場 日本基督教団 広島流川教会

★プログラム

総合司会 伊東辰彦

- | | | | |
|------|-------------|---|-----------|
| 5/29 | 10:00-10:05 | オルガン前奏 会長開会挨拶 | |
| | 10:05-11:00 | 研究発表・・・大津磨由美、佐々木悠 | |
| | 11:00-12:00 | 基調講演・・・沖村裕史牧師 「教会に仕える賛美 ーより豊かな礼拝をめざしてー」 | |
| | 12:00-12:30 | 総会 | |
| | 12:30-14:30 | 懇親会、ミニコンサート | |
| | 14:30-16:30 | シンポジウム
「教会音楽・実践の現状」 | 司会 佐々木しのぶ |
| | | 広島流川教会オルガニスト..... | 大代恵氏 |
| | | 広島ルーテル教会オルガニスト..... | 吉田仁美氏 |
| | | カトリック広島観音町教会オルガニスト... | 横田和歌江氏 |
| | 16:30 | 会長閉会挨拶 | |
| | 16:40- | エリザベト音楽大学・オルガン見学、世界平和聖堂見学 | |





流川教会ロビー受付にて資料頒布



シンポジウムのパネリストの皆さん



挨拶する金澤会長



伊東氏によるプログラム全体の説明



シンポジウム参加者のみなさん



エリザベト音楽大学見学会に向かう一行



研究発表(大津氏)



沖村牧師による基調講演



エリザベト音楽大学セシリアホールオルガン見学



ヘンゼラー、大津、佐々木、三氏によるミニコンサート



音大練習室にてオルガンの解説

★2010年度総会報告

第1号議案 2009年度事業報告および2009年度収支決算の件
第2号議案 2010年度事業計画および2010年度収支予算案の件
第1号議案、第2号議案いずれも、挙手による採決により、賛成多数で承認。

★役員会報告

- ①日 時：2010年3月21日(日) 14:00-15:30
場 所：芸術劇場5Fマエストロ
出席者：赤井、新垣、伊東、金澤、塩谷、手代木
議 題：学会誌、ニュースレター、大会について
- ②日 時：2010年5月9日(日) 14:00-15:30
場 所：池袋ルミネ2F マウカ・メドウズ
出席者：赤井、伊東、植木、金澤、塩谷、佐々木、手代木、
議 題：大会の詳細な企画について
……場所、講師、会費の決定
ニュースレター、大会案内
学会誌
- ③日 時：2010年7月25日(日) 14:00-15:30
場 所：芸術劇場5Fマエストロ
出席者：赤井、新垣、伊東、金澤、塩谷、手代木
議 題：第10回大会報告
次回セミナーの計画
第11回大会案
- ④日 時：2010年9月12日(日) 14:00-15:30
場 所：芸術劇場5Fマエストロ
出席者：赤井、新垣、伊東、金澤、塩谷、手代木、
議 題：第11回大会案
2011年6月4日(土) 10:00-16:30
会場：青山学院大学
内容：讃美歌・聖歌の諸問題
(キリスト教礼拝音楽学会発足から10年と今後の展望について)

★学会誌発行予定

第10号 …… 4月半ば刊行予定

内容●巻頭言

- 論文…E.ヘンゼラー、大津鷹由美、佐々木悠
- 研究ノート…加藤拓未
- 特別寄稿…山本有紀
- 書評…加藤拓未
深井智朗・大角欣矢著『憶えよ、汝死すべきを』
- 第10回大会プログラム・報告…伊東辰彦

*別冊 『讃美歌書誌』手代木俊一著を同時発行予定

★第11回大会予定

日 時：2011年6月4日(土) 10:00 - 16:30
会 場：青山学院大学
主 題：「讃美歌・聖歌の諸問題」(仮題)
(キリスト教礼拝音楽学会発足から10年と今後の展望について)

★会員の新刊案内

- 『ミサ曲・賛歌集 会衆用/改訂版』新垣壬敏編著 聖母の騎士社 2009年12月
- 『讃美のいけにえ』新垣壬敏著 教文館 2010年3月
- 『新版 古楽のすすめ』金澤正剛著 音楽之友社 2010年7月
- 『教会音楽ガイド』水野隆一他編 日本キリスト教団出版局 2010年7月
- 『インスピレーション』ジャナサン・ハーヴェイ著 吉田幸弘訳 2010年7月
- 『DVD 永遠のふるさと』森祐理・手代木俊一出演 手代木俊一監修 ライフ・クリエーション(いのちのことば社) 2010年10月

★会員出版物の案内・募集

※編集委員会より
会員の最新刊行物を掲載し、皆様にご紹介したいと思います。
編集委員(手代木、佐々木宛)までお知らせ下さい。

★会費納入のお願い

会の運営に対して、いつもご支援をいただき感謝申し上げます。
2010年度の会費をまだ納入していない方は、下記の口座に至急お振込みくださいますようお願い申し上げます。

キリスト教礼拝音楽学会 東北地区部会
郵便振替口座 02240-3-46335

入会金：3,000円(入会時のみ)
年会費：正会員 6,000円
準会員 3,000円
賛助会員 20,000円

- 振込用紙には* ____年度/正・準・賛助会員/会費の金額を必ず明記の上、ご送金ください。
- 住所変更等も、お知らせください。
- 会費納入についてご不明なことがございましたら、下記にご連絡をお願い申し上げます。

会計担当 佐々木しのぶ

〒980-0023 仙台市青葉区北目町6-6-1101

TEL/FAX022-262-6565 Email:sshinobuorg@ybb.ne.jp